

聞き書き作品をつくる



# 「生きているって、感じるんだわ」

藤本 ユリ（北海道羅臼町） × 逢坂 理子（藤女子高等学校2年）

## 1 自己紹介

藤本ユリ。生年月日は大正15年1月3日、今はもう86歳。職業は漁師。生まれはね、北海道の乙部村、今は乙部町。嫁いだのは函館の古川町。子供が二人、孫が八人の家族だ。

漁師つつつても正しい名前は拾い昆布漁業。9年間旦那と昆布拾いやってたけど、俺が60歳の年に亡くなっちゃった。そのあと余所で働いてもよかったんだけど、いろいろ考えて一人でもできる職業だから「いや俺は昆布拾いする」つつつて、ずうっとやってる。

## 2 俺、わがままな子供だったな

今おっきくなって考えたら、子供のころはわがままだった。勉強は好きでねえ、というより嫌いだ。好きなわけねえ、覚えられねえから。勉強のことはぜんっぜんね、だめだった。ひとつも書けね。今もだめだけどな。今までかかわってきた人から手紙をもらって、それを読むことはできるんだけど、書くことはまった

てのもあってね、羅臼越して向こうの赤岩のほうさ行ってね、昆布拾いやったの。

## 4 拾い昆布漁業とは

昆布の採り方つつつたって、たいていの人は船使うんだわ。船さ乗って、岸からだんだん深いところに向かってね、はさみみたいなやつで挟んでねじって、からめてちぎるんだ。はさみみたいなやつは昆布採り竿っていうんだ。でも赤岩の昆布は意外と浅いところにもあるから、採りやすいんでねえか。

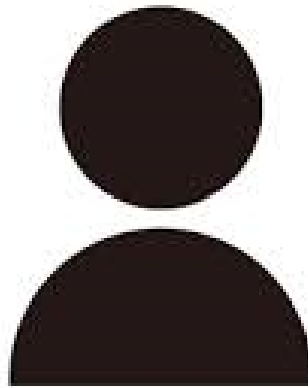
俺の拾い昆布漁業は、岩に生えてる昆布が、ぐらぐらと波で揺らぐべさ。で、大きな波が来て、今度その岩から離れて押し流されて寄ってくるわけ。波の力でちぎれて、浜に流れ着くんだわ。それを俺が拾って歩くんだ。だから番屋にいて、天気が悪くなつて嵐が来て、大きな波が来ても俺はこわがらねえ。逆にうれしくなるんだわ。次の日に浜へ行ったら昆布が流れてくるから。

ほかの漁師は、みんな昆布採り竿を使った方法だ。拾い昆布やってるのは俺一人しかいねえもん。いや一応三人いることになってるけど、誰も行がねえから。昆布拾いってね、道具で採る権利を

# 話し手は、誰なのか？

文章の冒頭で、話し手の基本的なプロフィールがわかるように整理する。

(名前、年齢、職業、住んでいる場所など)



主人公



タイトルをつける

良い種は栄える 一杉の種採り名人一

名前を入れる

小見出しをつける

話し手 ○○○○

聞き手 ○○・○○・○○

いたずらっ子時代

私は杉本充です。昭和5年9月6日生まれで、今年で80歳になりました。奈良県川上村で生まれ育ちました。生家は山の中腹で、子どものときは、もっぱら山に入って遊んでいました。崖から木に飛び移ったり、川に飛び込んだり。冒険好きのいたずらっ子でした。

作品の冒頭には、名前、生年月日、年齢、職業など、その人に関する基本的な情報を入れる。



# 作品の構成（起承転結）を考える

◎自己紹介をした後で、どの話からはじめるか

(たとえば、子どもの頃の話からはじめる、印象的な話からはじめる等)

◎仕事や暮らしの話は、どう並べるか

(たとえば、四季の作業を順番に並べる。

道具の話から入って、技術の話につなげる、など)

◎どの話に展開し、どの話で終わるか

(たとえば、家族のこと、ふるさとへの思いなど、何を大切にするか)

※話した通りの順番で、作品をつくる必要はありません。

## 文章整理の例

Q 「森林組合で働きはじめたのは、何歳のときですか」

A 「えーと、そうねえ。22歳のときだと思います。  
父も、森林組合に勤めていたんですよ。  
だからでしょうかねえ。母は、とても喜んでくれました。  
お父さんの志を継いでくれたと思ったんでしょうね」

→私は22歳のときに、森林組合で働きはじめました。  
父も森林組合に勤めていたので、その志を継いでくれた  
と母は思ったのでしょう。とても喜んでくれました。



## 基本的な考え方

「語り口調」を生かしながら、読みやすくまとめる。

繰り返しや言い淀み(あのう、えーと等)は削除し、主語がない等の場合は補う。

指示語(こそあど言葉)は、具体的な名詞に置き換える。

趣旨は曲げずに第三者が読んでも、わかる作品に。



## 練習問題 ① 文章整理

Q. 杉本さん。お名前と生年月日を教えてください。

—名前は充（みつる）。昭和5年9月6日生まれ。

生まれ育つたのは、ここ、奈良県川上村です。

Q. 今年でおいくつですか。

—88歳になりました。もうええ年や。

孫は5歳。女の子でね、かわいくて仕方ない。

Q. 杉本さんが生まれたのは、どんなところですか。

—生家は山の中腹で。今の子らと違って、子どもんときは外っていうか、山に入って遊んでいました。

Q. たとえば、どんな遊びですか。

—崖から木に飛び移ったり、川に飛び込んだり。なんていうか、冒険好きのいたずらっ子だったねえ。

Q. 杉の種採りの仕事をいつから始めたんですか？

—中学校を出てすぐよ。

親父の仕事を自然と引き継いでいたってことだなあ。



## 練習問題 ①

~~Q. 杉本さん。お名前と生年月日を教えてください。~~

—私の名前は杉本充（すぎもと・みつる）。昭和5年9月6日生まれです  
から、今年で88歳になりました。生まれ育ったのは、（ここ、）奈良県川  
上村です。

~~Q. 今年でおいくつですか。~~

—88歳になりました。（もうええ年や。孫は5歳。女の子でね、かわいく  
て仕方ない。）

~~Q. 杉本さんが生まれたのは、どんなところですか。~~

—生家は山の中腹で。今の子らと違って、子どもんときは外っというか、  
山に入って遊んでいました。

~~Q. たとえば、どんな遊びですか。~~

—崖から木に飛び移ったり、川に飛び込んだり。なんていうか、冒険好き  
のいたずらっ子だったねえ。

~~Q. 杉の種採りの仕事をいつから始めたんですか？~~

—種採りの仕事を始めたのは、中学校を出てすぐよ。親父の仕事を自然と  
引き継いでいったってことだなあ。

## 練習問題 ① 回答

私の名前は杉本充（すぎもと・みつる）。昭和5年9月6日生まれてすから、今年で88歳になりました。

生まれ育ったのは、奈良県川上村です。

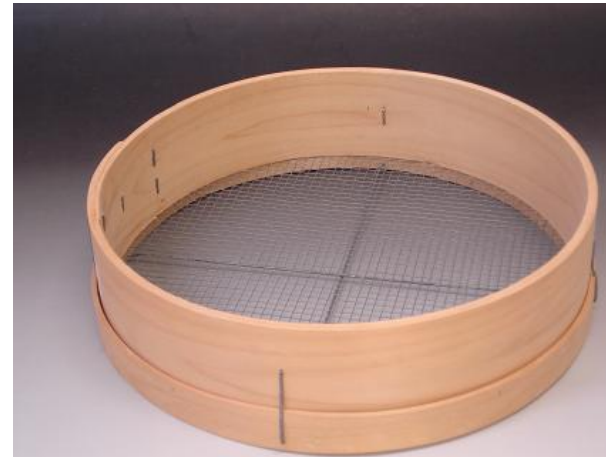
生家は山の中腹で。子どもんときは、山に入って遊んでいました。

崖から木に飛び移ったり、川に飛び込んだり。なんていうか、冒険好きのいたずらっ子だったねえ。

種採りの仕事を始めたのは、中学校を出てすぐよ。親父の仕事を自然と引き継いでいったってことかなあ。







## 練習問題② 文章整理

Q 種採りつて、どういう仕事なんですか。

—杉の種を採るんです。採るのは10月以降と決められていて、秋の土用が適期ですな。木に登ってね、種を採ります。高さは、そうだなあ。40メートル近いかなあ。

Q. どうやって登るんですか。

—カルコ登りって言ってね。カルコっていうのは、ロープの両端に木の棒。あのを、拍子木みたいな棒が巻きつけてある、そういう道具で。それを木に結んで、足場にして登っていく。登ったらアゲツナで、鎌を木の上まで引っ張りあげて、それで枝を切り落とすんです。

Q. 漢字でどう書きますか？

—カルコは「軽い」という字に、子どもの「子」。アゲツナは「上げる」に「綱」やな。

Q. 切り落とした枝は？

—その枝に種がね、球果の中には杉の種がいっぱい入っている。それを篩（ふるい）ってわかるか？ 篩にかけて選別するわけ。種はなあ、生きとるから、紙袋に入れて保管する。空気を通さんとあかんのよ。

Q. つまり種採りは、木に登って、球果のついた枝を切り落とす仕事。

—そうそう。鎌はなあ、柄の長い鎌を使うんだよ。2メートルぐらいあるね。

## 練習問題②

~~Q 種採りつて、どういう仕事なんですか。~~

~~—杉の種を採るんです。採るのは杉の種採りは10月以降と決められていて、秋の土用が適期ですな。40メートル近い木に登ってね、種を採ります。木の高さは、そうだなあ。40メートル近いかなあ。~~

~~Q. どうやって登るんですか。~~

~~—軽子（かるこ）カルコ登りっていいね。カルコ軽子っていうのは、ロープの両端に木の棒。あのう、拍子木みたいな木の棒が巻きつけてある、そういう道具で。のこと。それを木に結んで、足場にして登っていく。木の上まで登ったら上げ綱（あげつな）アゲツナで、鎌を木の上まで引っ張りあげて、それで球果がついた枝を切り落とすんです。鎌は、柄の長さが2メートルぐらいある長い鎌を使います。~~

~~Q. 漢字でどう書きますか？~~

~~—カルコは「軽い」という字に、子どもの「子」。アゲツナは「上げる」に「綱」やな。~~

~~Q. 切り落とした枝は？~~

~~—その枝に種がね、杉の種は球果の中に杉の種がいっぱい入っている。それを篩（ふるい）ってわかるか？ 篩にかけて紙袋に入れて保管する。選別し、紙袋に入れて保管する。するわけ。種はなあ、生きとるから、空気を通さんとあかんのよ。~~

~~Q. つまり種採りは、木に登って、球果のついた枝を切り落とす仕事。~~

~~—そうそう。鎌はなあ、柄の長い鎌を使うんだよ。2メートルぐらいあるね。~~

## 練習問題② 回答

杉の種採りは10月以降と決められていて、秋の土用が適期ですな。40メートル近い木に登って、種を採ります。軽子（かるこ）登りっていいね。軽子ってというのは、ロープの両端に拍子木みたいな木の棒が巻きつけてある道具のこと。それを木に結んで、足場にして登っていく。木の上まで登ったら上げ綱（あげつな）で、鎌を木の上まで引っ張りあげて、球果がついた枝を切り落とすんです。鎌は、柄の長さが2メートルぐらいある長い鎌を使います。

杉の種は球果の中にはいっぱい入っている。それを篩（ふるい）にかけて選別し、紙袋に入れて保管する。種はなあ、生きとるから、空気を通さんとあかんのよ。

### 練習問題③ 作品タイトルを考えよう

Q. 種採りで一番注意しなければならないことは何ですか。

—それは母樹の選定だな。良い木から良い種を採ることは絶対条件です。なんせキャッチフレーズは、「良い種は栄える」ですから。

Q. なるほど。その、良い木って、どんな木でしょうか。

—うーん、なかなか一言では言えんなあ。木の形と樹皮の表情を見て決める。

Q. ある程度、経験を積めば、わかることですか。

—そうやな、経験がものを言うな。

これが完璧になるには30年かかりましたよ。

Q. 川上村では昔から種採りが盛んなんですか。

—あなた、大分の人だから川上村って言ってもわからんだろうけれども、雨が多くて、スギの生育に恵まれた土地でな。山の面積の7割、70パーセントが人工林です。

Q. 人工林って？

—人が木を植えて、育てるんや。で、いい木を育てるには、いい種がいる。だから種採りは原点の原点や。



### 練習問題③

Q. 種採りで一番注意しなければならないことは何ですか。

—それは母樹の選定だな。良い木から良い種を採ることは絶対条件です。なんせキャッチフレーズは、「良い種は栄える」ですから。

Q. なるほど。その、良い木って、どんな木でしょうか。

—うーん、なかなか一言では言えんなあ。木の形と樹皮の表情を見て決める。

Q. ある程度、経験を積めば、わかることですか。

—そうやな、経験がものを言うな。

これが完璧になるには30年かかりましたよ。

Q. 川上村では昔から種採りが盛んなんですか。

—あんだ、大分の人だから川上村って言ってもわからんだろうけれども、雨が多くて、スギの生育に恵まれた土地でな。山の面積の7割、70パーセントが人工林です。

Q. 人工林って？

—人が木を植えて、育てるんや。で、いい木を育てるには、いい種がいる。だから種採りは原点の原点や。

# タイトル案

杉の種採り30年～林業の原点を聞く～

良い種は栄える～100年先の森づくり～

種採りは原点の原点や～森の名人の知恵と技～

### 練習問題③

Q. 種採りで一番注意しなければならないことは何ですか。

—それは母樹の選定だな。良い木から良い種を採ることは絶対条件です。なんせキャッチフレーズは、「良い種は栄える」ですから。

Q. なるほど。その、良い木って、どんな木でしょうか。

—うーん、なかなか一言では言えんなあ。木の形と樹皮の表情を見て決める。

Q. ある程度、経験を積めば、わかることですか。

—そうやな、経験がものを言うな。

これが完璧になるには30年かかりましたよ。

Q. 川上村では昔から種採りが盛んなんですか。

—あんだ、大分の人だから川上村って言ってもわからんだろうけれども、雨が多くて、スギの生育に恵まれた土地でな。山の面積の7割、70パーセントが人工林です。

Q. 人工林って？

—人が木を植えて、育てるんや。で、いい木を育てるには、いい種がいる。だから種採りは原点の原点や。

## いたずらっ子時代

私の名前は杉本<sup>みつる</sup>充です。昭和5年9月6日生まれですから、今年で80歳になりました。奈良県川上村で生まれ育ちました。生家は山の中腹で、子どものときは、もっぱら山に入って遊んでいました。崖から木に飛び移ったり、川に飛び込んだり。冒険好きのいたずらっ子でした。

## 種採りの仕事

川上村は雨が多くて、杉の生育に恵まれた土地で、人が木を植えて山を育ててきました。山の面積の70パーセントが人工林です。私は中学校を出てすぐに、親父の仕事を自然と引き継いで、種採りの仕事を始めました。

杉の種採りは、10月以降と決められていて、秋の土用が適期ですな。40メートル近い木に登って、種を採ります。木に登るには、「<sup>かるこ</sup>軽子登り」といってね。軽子っていうのは、ロープの両端に、拍子木みたいな木の棒が巻きつけてある道具のこと。それを木に結んで、足場にして登っていく。

木の上まで登ったら、上げ綱で鎌を引っ張りあげて、球果のついた枝を切り落とす。鎌は、柄の長さが2メートルぐらいある、長い鎌を使います。

杉の種は、球果の中にいっぱい入っている。それをふるいにかけて、選別し、紙袋に入れて保管する。種はなあ、生きとるから、空気を通さんとあかんのよ。

**聞いたお話は、作品をまとめるときに、順序を入れ替えても良い！**

作品が完成したら、話し手に内容を確認

聞き書きは、その人が生きてきた証。

事実であっても、

本人が記録に残したくない内容は、削除する。

「話し手」と「聞き手」の信頼関係が  
何よりも大切。

# 作品の提出方法

## ■書き起こしをする(各自)

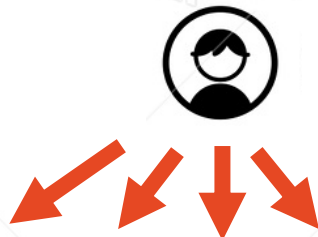
※12/13までにリーダーに提出



※インタビューを録音したデータを分担して書き起こし、リーダー提出する。

## ■データのとりのまとめ(リーダー)

※12/19までにメンバーと事務局にメール



※リーダーはデータをとりのまとめて(順番とおりに一つにつなげて)メンバー全員と事務局にメールする。

## ■作品のとりのまとめ(各自)

※1/9までにリーダーに提出



※各自、作品をつくり、リーダーに提出する。  
(タイトルや小見出しもつける)

## ■作品の提出(リーダー)

※2/1までに事務局に提出



※リーダーは、各自の作品を読み、一つを事務局に提出する。  
(最も良い作品を選ぶ or 各自の作品の良い部分を活かし一つにまとめて提出する)

※事務局が内容を確認し、印刷する